

4. 借坑性ハチ類の生態

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47801

and Japanese *A. Pycnanthum* K. Koch (Aceraceae). J. Phytogeogr. & Taxon. 41 : 63-69.

(清水建美 金沢大学理学部生物学教室, 木下栄一郎 金沢大学理学部付属植物園)

4. 借坑性ハチ類の生態

植物園内の建物の窓枠にネスト・トラップ(竹・ヨシなどの筒)を設置して, 借坑性ハチ類について以下の調査を行った。

(1) 借坑性ハチ類の群集構造

様々の太さの筒を一定割合で組み合わせたトラップを用いて借坑性ハチ類の種類組成を調査した。種々の生物相調査がなされてきた本植物園の種類組成を, 借坑性ハチ類の群集構造を考える上での基準としたい。今年度は同様のトラップを設置した金沢大学角間キャンパスの調査結果との比較を行う。詳細は分析中である。

(2) フタスジズバチ *D. japonicus* の生態

営巣個体にマークを施し追跡調査を行った。

フタスジズバチは本植物園では2化性であった。

メスの寿命は1月~1月半, この間の産卵数は10~15個であった。

第1世代の巣の寄生者としてヤドリニクバエの一種が確認された。

詳しい結果は, 日本昆虫学会第54回大会・第38回日本応用動物昆虫学会大会合同大会(1994年3月, 東京)にて発表した。

(石原一彦 金沢大学理学部生態学研究室)

5. 植物園の無脊椎動物相調査

1. 灌木上および草上に生息する小型無脊椎動物を対象として, 4月~1月の間, 園内の調査定点6点において月2回の叩き網採集および月1回の網採集を実施した。

なお, このほかに低い生垣の密生した茂みを対象として, 2ヶ所について月1回の叩き網調査を行った。

2. 林間の飛翔性昆虫を対象として5月, 6月, 8月, 9月および10月に, 林内2ヶ所において月1回マレース・トラップによる採集を行った。

3. 9月に園内の小水域4ヶ所において, 水生小動物の採集を行った。

4. 上記の採集, 調査と平行して, この間に園内において随時小動物の採集または観察と記録を行った。

1990年以降継続している採集, 調査の結果得られた標本の検査, 同定を続けているが, 1993年末までに種名が明らかになった種類数は次に示す表の通りである。

1990~93年の間に植物園内で採集された無脊椎動物の種類数

(1993年末までに種名が確認されたもの)

第1表 無脊椎動物全体

扁形動物	1	軟体動物	10	クモ綱	59
環形動物	3	節足動物		甲殻綱	9